

さまざまな人の知恵と協力で
継承できたことに感謝

元入来町郷土研究会会長

右田 幸雄 さん(85)

地域おこし協力隊の方の提案で「かえんそや」を新たな形で継続することになり、入来麓伝建地区協議会や地元の方々の協力を得て、実施しました。対象をまち自治会から入来町全域に広げたことで参加者が集まり、開催できましたが、私たちだけでは継続できなかったと思います。いろいろな人々の知恵と協力のおかげで、大切な伝統の灯を消さずに済んだことに感謝しています。



かえんそや

薩摩川内市入来町／旧増田家住宅

伝統菓子と礼儀作法を伝える 女の子の晴れ舞台

春の花がほころび始めるひな祭りの時期、薩摩川内市入来町の入来麓武家屋敷群内にある「旧増田家住宅」で、「入来ふもとのひなまつり」が盛大に行われます。なかでも、地元のお母さんたちが楽しみにしているのが、江戸時代末期から入来町のまち自治会で行われてきた女の子の伝統行事「かえんそや」です。

屋敷の庭で、持ち寄った小さな重箱を広げる晴れ着姿のかわいらしい少女たち。重箱には、ふくれ菓子、いこもち、型菓子など鹿児島島の郷土菓子が詰められ、「かえんそや（かえんそやしょう）」と言いながら、好きな菓子を交換し合います。母親たちは、わが子が行儀よく振る舞えるかどうかを、心配そうな面持ちで見守ります。

「正式には雛女講ひなじょうといい、1歳から小学生までの女の子の成長を祝う祭りです。かえんそやは女の子の楽しみでもあり、晴れ舞台。この日を目標に、箸の持ち方や礼儀作法などを学んでいくのです」と教えてくださったのは、元入来町郷土研究会会長の右田幸雄さん。昔は3月

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から薩摩川内市入来町に伝わる「かえんそや」をご紹介します。

3日、学校が終わってから座元の家に集まり、吸い物や祝いの料理を食べた後に行っていたそう、右田さんの娘さんたちも、かえんそやのおかげで礼儀作法を身に付けたといいます。

まち自治会では子どもの数が減り、かえんそやもおととし、一旦休止する予定でしたが、地域のイベントとして形を変え、継続しています。「本来、用意する菓子は手作り、母から子へ、家の味を伝える大事な行事でもあります。戦時中も芋を使って菓子をこしらえてきましたから、伝統を絶やさず、今日につながることで「できてうれしい」と入来麓伝建地区協議会会長の種田幸正さん(86)は語ります。かえんそやは、時代に寄り添いながら、行事に込められた大切な意味を伝え続けていきます。



薩摩川内市

薩摩川内市

薩摩川内市は、平成16年に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村が合併して発足した、総人口97,636人(平成28年1月1日現在)の市です。薩摩半島北西部に位置し、東シナ海に面した海岸線、市街地を流れる一級河川(川内川)など、多様な自然が特徴です。写真は「旧増田家住宅」。武家住宅の特徴がみられる別棟型民家で、平成26年に国有形文化財に指定されました。